

(1) 体は自然 ① 未病と発作 3. 発作現象の濁醪モデル どぶろく

表位：肩胛骨・鎖骨から上
 上焦：表位より下で横隔膜まで
 中焦：横隔膜から臍まで
 下焦：臍から下

気血水病証
 体の横輪切り
 体の内側の病証
 を見るのに向く
 腹の毒(虚)から
 頭へ
 邪気が衝き上げる
 (急性期に顕著)
 (c.f.漢方古方派
 (吉益東洞など))

①造りたて
酒全体が濁っている

②静かに置いておく
重さで三層に分化
c.f.病が静のとき

③栓を抜く
泡となって噴く
c.f.病が動のとき

余談：『傷寒論』の太陽病：上気道感染症
 中風：普通のカゼ
 傷寒：新型インフルエンザやSARS

・・・のような気がする

(1) 体は自然 ② ツボの形 手でツボが取れ、反応が分かるように

(1) ツボの形の基本形

(2) 実のツボ (新しい)

(3) 虚のツボ (古い)

筋肉：正常なら自在に緊張弛緩するが、疲れると機能性病変(過弛緩, 過緊張)になる
 硬：疲れて硬く縮んだまま (過緊張) になった部分
 ふにや：もっと疲れて弛緩したまま緊張できなくなった (過弛緩) になった部分